

坑内から見る栗子隧道

H 21.7.11 阿部撮影



萬世の大路

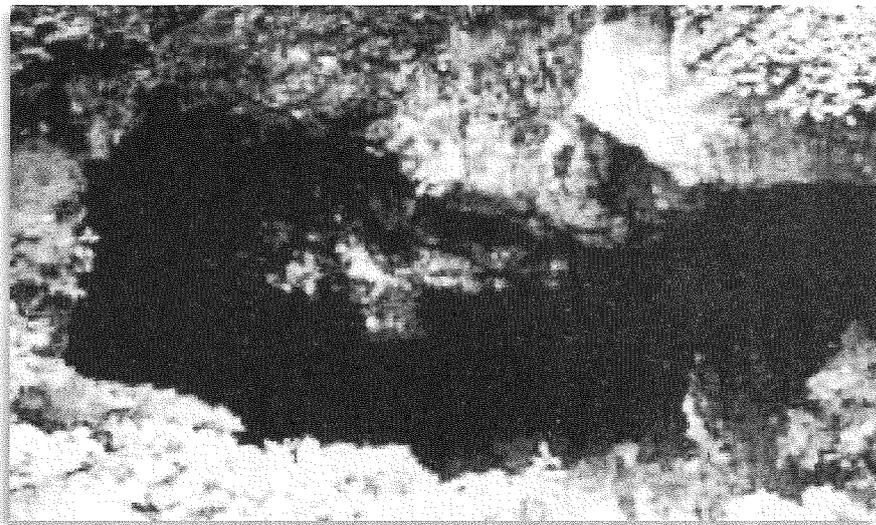
第9号
平成23年2月25日発行

発行者
歴史の道万世大路・万歳の松保存会
会長 田畑 寛

事務局
万世コミュニティセンター
☎0238-28-5381

現在の坑口の様子

H 21.7.11 阿部撮影



百三十年を経過した
栗子隧道

明治14年に開通した初代の栗子隧道は、栗子山(1,216m)の南側の鞍部真下に建設された。

米沢側坑口は、標高889m、福島側坑口は標高876mで、米沢側坑口の方が13m高い。栗子隧道の縦断勾配の詳細は不明だが、米沢側から福島側に向けて下り勾配だったと思われる。

完成から130年経過した今、坑口部には、落石が溜まり、なおさら坑口部が高く坑内が低く排水不良状態になっているが、幸い坑内に溜水がないのか、水が貯留してはいない。

現在隧道は大きく崩落していて、まるでトンネルというより洞窟のようである。

栗子隧道の建設工事は、当時の日本の土木技術・測量技術の水準を試し、それをさらに発展させるための実験場であった。万世大路・栗子隧道を語る時、ともすると三島県令の業績ばかりに光があたりがちだが、日本の近代土木技術の発展に占める技術的な意義と、この工事に携わった日本人技術者の存在を忘れてはならない貴重な土木遺産である。